

「検定」活用で学ぶ意欲高める

検定試験
特集

食の
検定協会

食の検定を活用した 学校の取り組み

有限責任中間法人食の検定協会(内田啓祐代表理事)は、12月21日(日)に食の検定・食農2級と3級の検定試験を全国11会場で実施する。今回、食の検定を活用した実践授業に取り組み岡山県の高校2校の教諭にそれぞれの目的やねらいについて話を聞いた。



松岡聡・岡山県立井原高等学校教諭

岡山県立井原高等学校(原田直樹校長、生徒706人)の松岡聡教諭は、園芸科のフード&フルーツ類型で農業教科の指導を担当している。フード&フルーツ類型には、学校独自の設定科目として、食品の製造や流通について学ぶフードシステムと地域の農作物・歴史・食文化などを幅広く学ぶ地域農業探求がある。

松岡教諭は、2年生のフードシステムの授業で副教材として食農3級のテキストを使用、フードマイレージ、地産地消、食料自給率、加工食品の表示などの学習に活用した。同教諭はテキストを授業で使用した目的を次のように語る。

「生徒に食育について意識させ、食と農のつながりを学ばせることは非常に重要です。そう考えていた時に、この検定



藤井徹・岡山県立高松農業高等学校教諭

岡山県立高松農業高等学校(渡邊領治校長、生徒575人)の藤井徹教諭は、畜産科で農業教科の畜産科目を担当している。農業高校はその特性上、牛や豚の飼育方法など、専門的な技術論に深く入り、藤井教諭は、食と農を結ぶことは大事であり、授業でそのことを

教えていきたいと思ったの3級試験に12人が受験した。合格しなかった生徒から、12月の試験に向けて補習授業の申し出があったという。

藤井教諭は、生徒に新たな学ぶ意欲が出てきたことが取り組みの成果とした上で、「食と農のつながりを学ぶことは、検定の可否に関わらず大切なことでありねらっている学習でもあります」と今後の取り組みへの抱負を語った。

松岡教諭は、生徒に新たな学ぶ意欲が出てきたことが取り組みの成果とした上で、「食と農のつながりを学ぶことは、検定の可否に関わらず大切なことでありねらっている学習でもあります」と今後の取り組みへの抱負を語った。

同校からは、前回6月4日(金)の検定試験を受けた生徒も興味を持ちました。生徒も興味を持ちましたが、私個人としても教えた内容が話す。

同校からは、前回6月4日(金)の検定試験を受けた生徒も興味を持ちました。生徒も興味を持ちましたが、私個人としても教えた内容が話す。

【「食の検定」食農3級 例題】

- | | |
|---|---|
| 1) 国民が生涯にわたって健全な心身をつちかい、豊かな人間性を育むことができるよう、平成17(2005)年に制定された法律を何というでしょう。
①食育規定法 ②食育基本法
③食農基準法 ④食糧法 | 2) 米に含まれる栄養成分のうち、最も多いものはどれでしょう。
①炭水化物 ②たんぱく質
③脂質 ④ビタミン |
| 3) 現在、農業で働く人の年齢別割合で最も多いのは、どの年代でしょう。
①30歳代 ②40歳代
③50歳代 ④60歳代以上 | 4) 近年、日本全国で盛んになってきた「地元のもの地元で消費しよう」という運動を意味する言葉は、どれでしょう。
①地場産業 ②地産地消
③産直運動 ④身土不二 |

(以上3級)

【解答】1)→② 2)→① 3)→④ 4)→②

問い合わせ 食の検定協会 電話03-3261-4910 <http://www.stokuken.jp> 次回受験申込締切は11月21日(金)。